

## 東カリブ諸国機構（OECS）6か国月間情勢報告（2023年2月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

2月の東カリブ諸国機構（OECS）6か国（注）の内政、経済、外交月間報告は以下の通り。

（注：アンティグア・バーブーダ（アンティグア）、ドミニカ（国）、グレナダ、セントルシア、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

### 1. 概況

- （ドミニカ）スケリット首相は野党側と選挙制度改革について議論しようとするも、野党側は警戒。そのような中で、選挙制度改革の最終報告書が3月25日に提出される。また、サバリン大統領の2期目の5年間の任期が10月1日に終了する。
- （アンティグア）昨年11月から本年1月にかけてアフリカから到着した乗客の数百人がアンティグアに留まっており、国内問題化。多くはカメルーン人で、自分たちは難民と述べており、政府の対応に野党は反発して抗議活動を実施。
- （セントキッツ）同国のドッカーリー国連代表が国連で演説し、安全保障理事会を改革する必要性を訴えた。また、リバード副総督が総督に就任。初の女性総督。
- （セントビンセント）ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）事務局の代表にスレーター元外相が就任する。同国は他のカリコム諸国とともに包括的な方法でCELAC議長職に臨む。
- （グレナダ）植民地時代にグレナダにいた英国人農園主の子孫がグレナダ人に対して、自分たちの祖先が与えた恐怖に対する公式の謝罪を申し入れた。
- （セントルシア）ジュネーブで開催されたWHO理事会で、セントルシア政府は台湾がWHOの会議、活動、メカニズムに含まれることを引き続き要求。
- （その他）複数の域内国で治安や銃密輸問題がクローズアップ。政府は警察当局の取り組みや他国との強力に取り組む。また、東カリブ中央銀行総裁は、エリザベス二世女王が東カリブ・ドル紙幣に登場する最後の英国君主となるかも知れない、地域では英国君主への関心が低いと述べた。

### 2. 内政

#### （1）新型コロナウイルス

- （1日セントキッツ報道）IMFは、コロナにより打撃を受けたセントキッツ

経済が回復し、生活費の危機も改善しつつあるが、リスクはやや下向きに傾いていると指摘。

●（28日セントルシア報道）保健相は、国内にコロナXBB1.5が存在し、インフルエンザ患者も急増していることについて、マスクの着用は奨励されるが強制ではないと述べた。

## （2）その他内政

●（1日セントキッツ報道）リバード副総督が総督に就任。当国で初の女性の総督。

●（5、6日セントキッツ報道）リバード新総督の就任式典が4日、政府庁舎にて実施された。また、同新総督は、セントキッツ国防軍（SKNDF）の任務に敬意を表し、国の安全と治安を強化するために国防軍や他の治安部隊と緊密に連携すると述べた。

●（7日ドミニカ報道）サバリン大統領は、自身の2期目の5年間の任期が本年10月1日に終了する、それまでは職務を継続し、後任の大統領に大統領府と公邸が円滑に移行できるよう必要な手配を行うと述べた。

●（7、9日ドミニカ報道）スケリット首相は、選挙制度の近代化について議論するために、バイロン選挙制度改革委員長と会談する。これに対し、選挙制度改革連合（ERC）は、同首相が選挙制度改革プロセスに介入しようとする試みを懸念している。

●（8日アンティグア報道）新たに就任したグリーン外相兼バーブーダ島問題担当相は、外相として培った外交手腕によりアンティグア島とバーブーダ島の緊張関係を溶かすことを期待している。両島間では近年、ブラウン内閣とバーブーダ人民運動率いるバーブーダ議会の間で厳しい言葉の応酬があり、その多くはバーブーダの土地所有権をめぐる論争である。

●（9日セントルシア報道）ピエール首相は、近年、同国は米国との間で貿易、安全保障、観光分野で協力関係を強化してきたが、野党統一労働者党（UWP）等がソーシャルメディアで根拠のないあからさまなデマを流布し、同国の外交関係を損ねる悪意ある試みを行っているとは非難。

●（10日セントビンセント報道）野党は、国内の犯罪率の上昇に対抗するために、政府はFBI、インターポールといった外部機関に支援を求めるべきと考えている。

●（10日ドミニカ報道）ドミニカ政府は、ナイジェリアのゴスペル歌手のオシナチ・エグブ（芸名：シナチ）を「グローバル大使」に任命。

●（10、13日セントビンセント報道）野党は、ゴンザルベス首相は兼務している国家安全保障相を辞任し、国内の殺害件数を減らすべく地域および国際的

支援を求めるべきと述べた。同首相は警察本部長および警察幹部と協議し、22年に記録した42人に続き、今年もこれまでに9件の殺人事件を記録している犯罪状況について話し合っている。

●（16日セントキッツ報道）首都バセテール選出の国会議員は、選挙区で急増する犯罪行為に対処必要があると主張。

●（16日セントビンセント報道）フライデー野党代表は、国内における犯罪増加への取り組みに超党派で参加する意思があるとしながらも、21年8月以降、ゴンザルベス首相が自分と話をしていないと指摘。

●（22日セントビンセント報道）ゴンザルベス首相は本日、初めて国会議員に当選してから29年という節目を祝った。

●（23日セントキッツ報道）汚職防止法案に関する白熱した長い議論の後、政府の汚職行為を軽減し、公務員の透明性と説明責任を強化することを目的とした3つの法案（グッドガバナンス・アジェンダ）が国会で可決された。

●（24日セントビンセント報道）政府は、銃器の不正取引を阻止するために、入港地の警備対策を強化している。その一環で、2つの主要港とアーガイル国際空港に設置される新しいスキャナーの調達が行われている。

●（28日ドミニカ報道）スケリット首相は、バイロン選挙改革委員長の最終報告書が3月25日に提出されると述べた。

### 3. 経済

●（2日OECS発表）フランス政府は、OECSマングローブ復元事業に上限300万ユーロを支援すると発表した。

●（2日セントキッツ報道）ネイビス島行政府は、日本国際協力機構（JICA）から、ネイビス電力会社のデータ分析能力を強化するための電気機器を受領した。

●（3日セントビンセント報道）政府は、公務員給与を日給で2023年は2.5%、2024年は2.0%、2025年は2.5%引き上げることを決定した。

●（5日セントルシア報道）台湾は、25万東カリブドル相当（約9.2万米ドル）の感染症予防キット、幼児向け学習具、玩具、洋服等を公平・社会正義・能力開発省に寄贈した。

●（6日セントビンセント報道）女性のエンパワーメントプロジェクトを通じて31人の女性起業家が助成金を授与された。台湾が資金を提供するこのプロジェクトは、最終となる第三回を迎えている。

●（9日OECS発表）グレナダの健康・福祉・宗教担当省は、世銀の支援により医療廃棄物管理のワークショップを医療関係者に対して実施した。

●（11日セントビンセント報道）2023年のセントビンセントから米フロリ

ダ州へのタロイモ出荷量は、年間13トンを目標とする。

- (13日グレナダ報道) インターカリビアン航空は、新たに機材を2機購入し、3月12日からアンティグア、バルバドス、ドミニカ国、グレナダ、ガイアナ、セントルシア、セントビンセントへの就航を増やすと発表した。
- (14日アンティグア報道) アンティグア及びOECS加盟国は、カリブ観光機構の加盟料引き下げを求める。
- (15日セントルシア報道) セントルシア及びマルティニークの司法当局は、コンク貝1トンを密猟したセントルシアとマルティニーク出身者を逮捕した。
- (15日セントルシア報道) 汎米保健機構(PAHO)は、セントルシアにおいて、4日間にわたる伝染病管理の技術支援講習を実施した。
- (20日セントルシア報道) 米国際開発庁(USAID)は、セントルシアにおいて、青少年育成・スポーツ省、公益事業・内務・労働・ジェンダー問題省、公平・社会正義・能力開発省と密接に連携して3つの社会開発事業を立ち上げた。
- (20日グレナダ報道) 米農務省は、グレナダからのマンゴー輸入を承認した。
- (20日セントキッツ報道) セントキッツは、カリコム諸国では初めてアフリカ輸出入銀行と、太陽光発電、地熱発電の再生可能エネルギー分野及びスマートメーター等のエネルギー分野における連携を進める覚書に署名した。
- (20日セントキッツ報道) ネービス島政府財務大臣は、2.6億東カリブドル(約9,600万米ドル)に上る2023年予算案を議会へ提出した。
- (20日セントビンセント報道) エア・カナダは、セントビンセントへの就航を一時的に停止する。季節毎の需要に伴い就航を決定しており、次回の再就航は本年秋頃を予定している。
- (23日グレナダ報道) 大西洋まぐろ類保存国際委員会(ICCAT)は、グレナダに対するマグロ及びマグロ類の禁漁を解除した。ICCATは、今月初めグレナダに対して禁漁するよう求めていた。
- (23日セントキッツ報道) ドリュエー首相は、開発銀行が2018年から監査を受けていなかったことで、2,000万東カリブドル(約740万米ドル)の現金が不足していることが判明したと国会に報告した。
- (24日OECS発表) 金利上昇とインフレが依然として世界の金融情勢を悩ませている一方で、東カリブドルの強さは依然として強く、東カリブ通貨同盟(ECCU)の経済状況は、2022年末に50億4000万ドルの対外資産となり、回復傾向が続いている。
- (24日セントキッツ発表) ネービス島管理局の財務大臣であるブラントリー首相が提出した「ネービス歳出2023法案」が、ネービス島議会で可決された。
- (24日セントビンセント報道) シーザー農業・林業・漁業・地方改革・産業労働大臣は23日の国会で、100人以上の地元漁師が政府の船団拡張プログ

ラムの融資を申請していることを明らかにした。

- （24日OEC S発表）東カリブ中央銀行（ECCB）金融理事会は、第105回金融理事会を、23年7月21日にセントビンセントにて開催することに合意した。
- （25日セントキッツ発表）保健省は台湾国際協力開発基金（ICDF）と共同で、2023年3月第1週から4月にかけてセントキッツで実施する「24時間リコール食事摂取量パイロット調査」について発表した。
- （26日セントルシア報道）台湾技術使節団（TTM）は、農業・漁業・食糧安全保障・農村開発省と連携し、セントルシアの女性農家54名を対象に気候変動に適応した農法に関する研修を実施。研修は台湾政府の資金援助を受け、2月～6月まで実施予定。
- （27日セントキッツ発表）セントキッツ観光局は、インターカリビアン航空との提携により、バルバドスとの直行便の運航を開始したと発表した。
- （27日セントビンセント報道）韓国国際貿易協会（KITA）は28日、セントビンセントの投資促進会社インベストSVGが主催する会合でプレゼンテーションを行う。
- （27日セントビンセント発表）ジェームズ観光大臣は、3月3日からアメリカン航空がセントビンセントへ毎日運航する旨を発表。
- （28日ドミニカ報道）OEC S地域保健プロジェクトの一部として、世界銀行の資金援助による、ドミニカ政府の緊急事態管理イニシアチブ推進を目的とする2日間のワークショップが開始された。
- （28日セントルシア報道）チェン台湾大使は、ピエール首相に320万東カリブドルを寄贈。国内の社会的セーフティネットを強化するために使用される。

#### 4. 外交

- （2～8日アンティグア報道）昨年11月から本年1月にかけてアフリカからチャーター便で到着した911人のうち数百人がアンティグアに留まっている。その多くはカメルーン人で、自分たちは本国の内戦から逃れてきた難民だと述べており、政府は彼らの滞在を認めようとしているが、野党は反発して抗議活動を実施。
- （3日セントビンセント報道）ゴンザルベス首相は、キングスタウンにあるラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）事務局の代表にスレーター元外相が就任すると発表し、他のカリコム諸国とともに包括的な方法で議長職に臨むと述べた。
- （3日セントルシア報道）1月30日から2月7日までジュネーブで開催されている第152回WHO理事会においてセントルシア政府は台湾がWHOの会

議、活動、メカニズムに含まれることを引き続き要求した。

- （４日アンティグア報道）英国高等弁務官は、投資による市民権（C B I）プログラムへの英国の対応について説明。プログラムが悪用される可能性に言及し、国民が査証なしで英国に入国できる国々が検討の対象と述べた。
- （９日セントビンセント報道）C E L A C議長としてベネズエラを訪問したゴンザルベス首相はマドゥーロ大統領と会談。同大統領は、ゴンザルベス首相は素晴らしい友人であり、セントビンセントとの戦略的関係を強化すると述べた。
- （１０日セントビンセント報道）ベネズエラのマドゥーロ大統領の長年の盟友であるゴンザルベス首相は、ベネズエラは米政権との良好な関係を望んでいると述べた。
- （１０日アンティグア報道）国内に留まっているカメルーン人は、アンティグアの市民権は付与されないが、居住許可と労働許可は付与される可能性がある。
- （１５日セントビンセント報道）ピータース外相は、台湾で開催中の「女性に力を！」フォーラムに出席。その際に蔡総統は同外相と面会し、台湾はセントビンセントの学生の台湾留学用奨学金を拡大すると述べた。
- （１６日アンティグア報道）東カリブ中央銀行のアントワヌ総裁は、エリザベス二世女王が東カリブ・ドル紙幣に登場する最後の英国君主となるかも知れない、地域では英国君主への関心が低いと述べた。
- （２０日セントキッツ報道）セントキッツのドッカーリー国連代表が国連で演説。安全保障理事会を改革する必要性を訴えた。
- （２３日グレナダ報道）ピエール警察副長官は、カリコム諸国の国民として初めて、２０２０年に中国公安部が制定した長城記念銀メダル（Great Wall Commemorative Silver Medal）を受賞した。
- （２３日セントキッツ報道）ユネスコとの技術協力の一環として、教育省は持続可能な開発のための教育（E S D）フレームワークの開発のため、９万米ドルの支援を受ける。この資金は、日本信託基金により提供される。
- （２７日グレナダ報道）植民地時代にグレナダにいた英国人農園主の子孫であるトレベリアン一族は、グレナダ人に対して、自分たちの祖先が与えた恐怖に対する公式の謝罪を申し入れた。
- （２８日ドミニカ報道）スケリット首相は、投資による市民権（C B I）プログラムを実施している国々に対して米国政府が建設的に関与しているとして歓迎した。同首相によると、米国財務省が昨年ドミニカを訪問し、C B Iプログラムの運用等について調査し、その結果がドミニカ側に提供された。